Garden City UBE

ガーデンシティうべ構想



つつじ



サルビア



宇部小町

2018.11

宇部市

は　じ　め　に

本市は瀬戸内海に面した温和な気候風土にあり、戦後、石炭産業から近代化学工業への転換に成功し、山口県の中核都市として成長してきました。この成長の過程においては、降灰によるばいじん汚染という公害問題などにも直面しましたが、宇部方式という独自の公害対策に取り組む一方で、「町に緑を取り戻し、人間性を回復しよう」という市民の切実な願いと、根強い市民運動に支えられた官民一体の緑化事業が始まりました。その後、この緑化運動が多くの市民の共感を得てまちぐるみの運動に育ち、緑が根付いていくにつれて「緑と花づくりを通して生命の尊さを」「自然（緑と花）と人間（市民）との接点としてまちに彫刻を置こう」といった声が高まり「花壇コンクール」「現代日本彫刻展」へと発展してきました。現在では、緑化の先進都市として国内外から高く評価されているところです。

いずれの取り組みも市民の声や活動を契機に事業が展開され、市民の財産として培われてきました。それらが全て「緑と花と彫刻のまち　宇部」につながっています。

一方で、少子高齢化、人口減少などにより花づくりに参加される市民や生産者の高齢化が進み、また、中心市街地では花が少なく、緑と花と彫刻が調和した空間が感じられないなどの声があり、これまでの取り組みをいかに次世代へ継承していくか課題への対応策が求められています。

そこで、本市が取り組んできた「緑と花と彫刻のまちづくり」を継承し、さらに持続的に発展させていくため、本市の緑・花・彫刻に対する将来のあるべき姿とそれを実現するための取り組みを明らかにし、他都市に誇れる魅力ある都市空間を創出する「ガーデンシティうべ構想」を策定しました。

今後は本構想の実現に向けて、将来の目標を市民・事業者・大学等と共有し、協働によるまちづくりをこれまで以上に推進していくことが重要となりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、本構想の策定にあたり数多くの貴重なご意見、ご提言をいただきました宇部市ガーデンシティ緑化運動推進委員やアドバイザーの皆様を始め、ワークショップなどに参加された市民の皆様並びに関係各位に心からお礼を申し上げます。

平成３０年11月

宇部市長　久保田右子





ガーデンシティうべ構想
Garden City UBE

2018.11
宇部市

目　次

第Ⅰ章
ガーデンシティうべ構想の概要
1　構想策定の目的 … 2
2　構想の位置付け … 2
3　計画区域 … 3
4　計画期間 … 4

第Ⅱ章
緑と花と彫刻のまち宇部の歩み
1　「緑と花と彫刻のまち 宇部」ができるまで … 6
2　宇部市とバラ …10

第Ⅲ章
緑と花と彫刻のまち宇部の現状と課題
1　「緑と花と彫刻のまち宇部」の現状 …12
2　有識者や市民意見等 …13
3　課題の整理 …14

第Ⅳ章
ガーデンシティうべ構想の基本理念とテーマ
1　基本理念 …16
2　テーマ …17
3　循環構造 …17
4　体系図 …18
5　イメージ図 …19

第Ⅴ章
具体的な取り組み
1　まちを育てる …21
2　ひとを育てる …35
3　花を育てる …43

参考資料
計画スケジュール …50
用語解説 …52

Garden
City
UBE

第Ⅰ章

ガーデンシティうべ
構想の概要

1 構想策定の目的

本市の緑化事業は、市街地の戦災復興に伴い発生した公害問題の克服をきっかけに始まり、「町に緑を取り戻し、人間性を回復しよう」という市民の切実な願いに支えられた官民一体となった運動が、その後の、市民参加型の「花いっぱい運動」、「宇部市を彫刻で飾る運動」へと発展してきました。

現在では、緑化の先進都市として国内外から高く評価されるまでに至り、「花いっぱい運動」から発展した花壇コンクールは2018年度には114回を迎えるなど、取り組みは着実に進んでいます。

その一方で、花づくりに参加する市民の高齢化などの問題や、中心市街地で花が感じられる空間が少ないとの声もあり、いかに次世代に継承するか課題への対応策が求められています。

このため、2021年に市制施行100周年を迎える本市では、先人が築いてきた「緑と花と彫刻のまちづくり」を継承し、持続的に発展させるための新たなステージとして、「ガーデンシティうべ」を目指し、構想を策定することにしました。

本構想では、市民や企業など多様な主体が参加し、全市的に取り組みを展開するための基本理念と具体的な取り組みを明らかにし、着実に実践することで、次世代につなぐ、他都市に誇れる魅力ある都市空間を創出していきます。

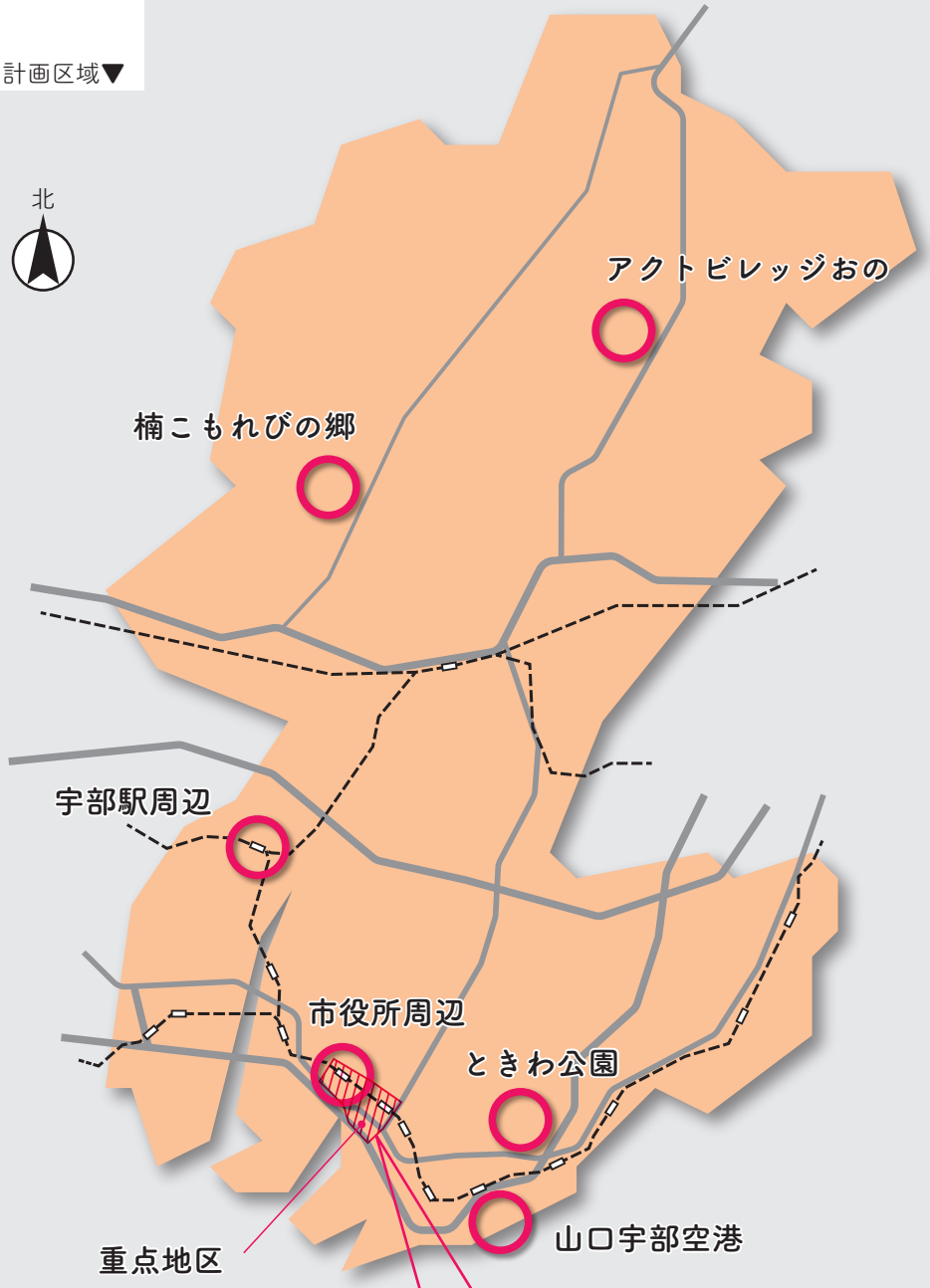
2 構想の位置付け

本構想は、第四次宇部市総合計画後期実行計画に適合させ、関連する各種計画との整合を図ることとします。

▼構想の位置付け



計画区域▼



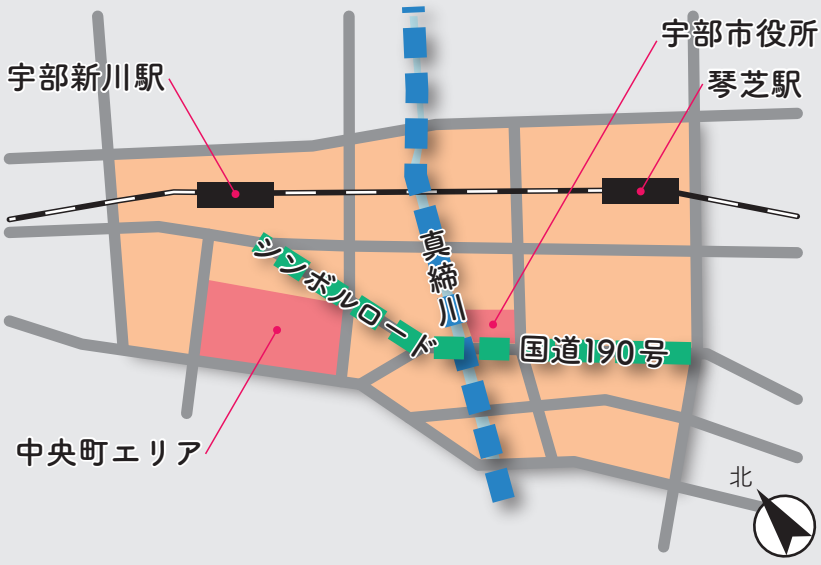
拠点：市役所周辺
ときわ公園

（ウェルカムゾーン）
山口宇部空港
宇部駅周辺

（北部地域の拠点）
楠こもれびの郷
アクトビレッジおの

重点地区：中心市街地

▼重点地区



3 計画区域

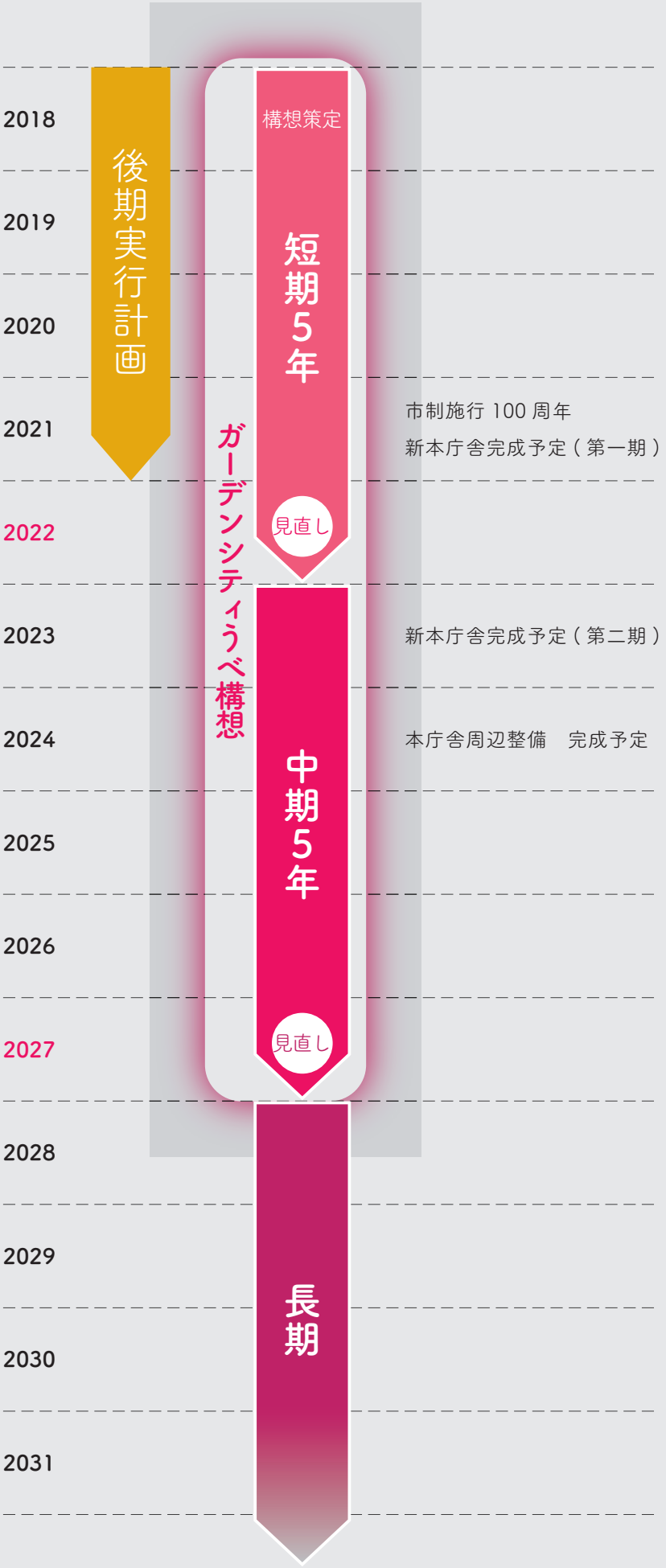
本構想の計画区域は宇部市全域とします。

また、拠点を市役所周辺やときわ公園をはじめ、山口宇部空港・宇部駅周辺（ウェルカムゾーン）、こもれびの郷・アクトビレッジおの（北部地域の拠点）とし、重点地区として中心市街地を設定し取り組みを進めます。

4 計画期間

本構想の計画期間は2027年までの10年間とし、必要に応じて中間年次の5年目に見直しを行います。また、主な施策については、第四次宇部市総合計画後期実行計画期間中に集中的に取り組むこととしています。

計画期間▶



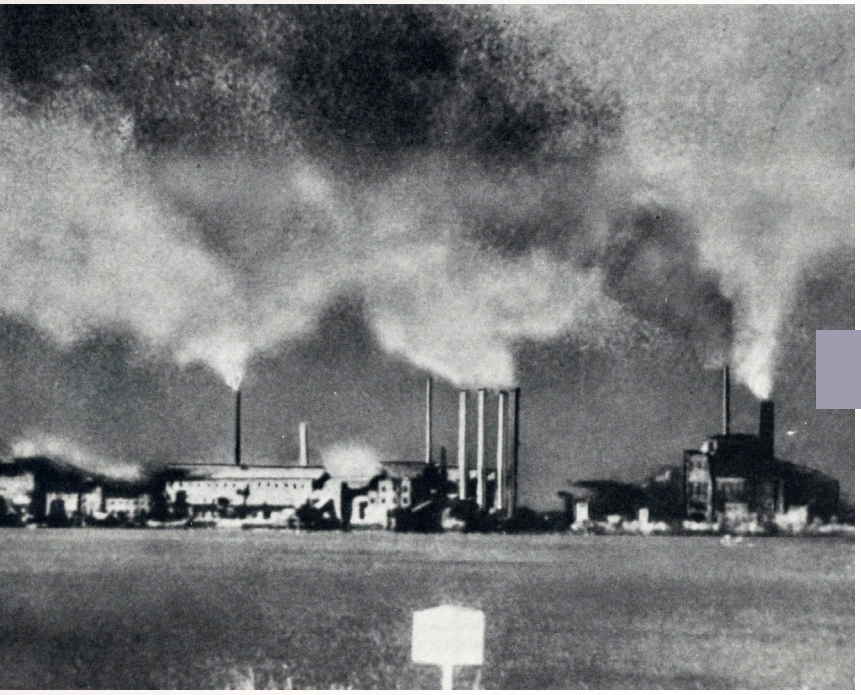
Garden
City
UBE

第Ⅱ章

緑と花と彫刻のまち宇部の歩み

1 「緑と花と彫刻のまち 宇部」ができるまで

本市の緑化事業の歩みを振り返ります。





戦　後

宇部市は戦災により市街地の大半を焼失したものの、再建にかける市民の熱意と石炭景気に支えられ、戦後順調な復興を遂げました。一方、産業の発展とともに、企業の石炭使用量が増加し、降灰によるばいじん汚染という公害問題が発生しました。

ばいじん世界一の汚名返上

1949 年

市民の生活環境を守るため「宇部市降ばい対策委員会」が設置されました。

1951 年

全国に先駆けて、「産・官・学・民」からなる「宇部市ばいじん対策委員会」を設置し、相互信頼と協調の精神をもって、話し合いによる、全市民が一体となった「宇部方式」といわれる独自の公害対策の取り組みを積極的に展開し、ばいじん汚染の克服に努めました。

1970 年

市民、事業者、行政の環境保全に関する責務を明らかにした「宇部市環境保全条例」を制定し、総合的な環境保全対策への取り組みが始まりました。

1997 年

「宇部方式」による公害対策の取り組みが国際的に評価され、国際連合環境計画（ＵＮＥＰ）から「グローバル５００賞」を受賞しました。



まちに緑を取り戻そう

宇部市の緑化事業のはじまりは、降灰によるばいじん汚染という公害問題を克服することがきっかけとなりました。

1950 年
緑化事業（客土と施肥による土壌づくりから）に着手し、樹木の成長に従い、次第に市民の共感や協力が得られはじめました。

1951 年
平和通りの緑化に着手しました。

1951 ～ 52 年
常盤通り～沖ノ山線の緑化に着手しました。

1953 年
平和通り～常盤通りの緑化で建設大臣表彰を受賞しました。

1963 年
宇部市のキャッチフレーズが「緑と花の工業都」に決まりました。

1966 年
様々な市民運動を統合した、「宇部市緑化運動推進委員会」が組織され、緑化事業が推進されました。

1972 年
宇部市緑化運動推進委員会（会長：宇部市長）が実施した一般公募により、市木を「くすのき」と定めました。

1983 年
緑の都市賞「建設大臣賞」を受賞しました。

1987 年
緑化推進運動功労者「内閣総理大臣賞」受賞、都市景観形成モデル都市に指定されました。

1989 年
宇部市のキャッチフレーズが「緑と花と彫刻のまち」に決まりました。

1993 年
「緑と花と彫刻のまち　宇部」にふさわしい、うるおいのある都市景観を創出するため、市道常盤通り宇部新川駅線（シンボルロード）を再整備しました。

2006 年
市道宇部新川駅通り線を再整備しました。

現　在
街路樹が市民２人に１本の割合となりました。





花いっぱい運動

緑化事業が多くの市民の共感を得て、まちぐるみの運動に育ち、緑が根付いていくにつれて「緑と花づくりを通して生命の尊さを」「人づくりの原点を緑と花づくりに」といった声が高まってきました。

1955 年
商工会議所の提唱により、「宇部を花で埋める会」（会長：宇部商工会議所会頭）が発足しました。

1956 年
「宇部を花で埋める会」が市民の花をバラと決めました。

1958 年
市女性問題対策審議会の提唱で「市民公園を花で埋める会」が発足しました。各家庭から手持ちの種子の提供や事業所等に種子代の寄付を呼びかけることからはじめ、やがて「花いっぱい運動」などの様々な市民運動へと広がっていきました。

1958 年
第１回花壇コンクールが実施されました。（２０団体の参加）

1960 年
「花壇コンクール実施要領」が定められ、年2回春と秋に実施すること、花壇用の苗は市の苗圃で育てて参加団体に無償配付すること等が決定しました。

1972 年
宇部市緑化運動推進委員会（会長：宇部市長）が実施した一般公募により、市花を「サルビア」と定めました。

2004 年
楠町との合併により、市花に「つつじ」を追加しました。

2014 年
2011 年に花壇コンクールが１００回を迎えたことを記念し、ときわ公園内に「花いっぱい運動記念ガーデン」がオープンしました。

2017 年
「うるおいが感じられるまちづくり」を目指し、中心市街地で「まちなか緑と花の回廊づくり」を始めました。

現　在
2018 年度秋の花壇コンクールで１１４回を迎え、１８０を超える参加団体があります。



まちなか 緑と花の回廊
UBE CITY



野外彫刻展

「緑化事業」、「花壇コンクール」等に続き、自然（緑と花）と人間（市民）との接点として、まちに彫刻を置こうという「宇部を彫刻で飾る運動」が市民運動として広がりました。

1958 年
花の種子の購入基金の一部で、宇部（現宇部新川）駅前広場に、ファルコネの「ゆあみする女（複製）」を設置し好評を得たことで、まちに本物の彫刻を飾ろうという機運が高まり「宇部を彫刻で飾る運動」へと発展しました。

1961 年
この市民運動を受けて、大規模な彫刻展（我が国で初めての野外彫刻展）「第１回宇部市野外彫刻展」が開催されました。

1963 年
「第１回全国彫刻コンクール応募展」が開催され、受賞作品を中心とした彫刻がまちに設置されるようになりました。

1965 年
「第１回現代日本彫刻展」と名称を改め、隔年開催となりました。

2009 年
2000 年代に入り、海外への公募を積極的に行う中で、「第２３回ＵＢＥビエンナーレ（現代日本彫刻展）」と名称を改めました。

2011 年
「第２４回ＵＢＥビエンナーレ（現代日本彫刻展）」で通算２６回、野外彫刻展５０周年を迎えました。

現　在
「UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）」は、世界で最も歴史のある野外彫刻の国際コンクールとして展開しています。都市景観と彫刻との関わりの追求は、パブリックアートのさきがけとして全国の「彫刻のあるまちづくり事業」のモデルとなっており、ときわ公園や市街地を中心に、市内には約２００点の野外彫刻が常設展示されています。



いずれの取り組みも、市民の声や活動を契機に事業が展開され、市の財産として培われてきました。それらが全て「緑と花と彫刻のまち 宇部」につながっています。

2 宇部市とバラ

本市とバラとの関わりは1950年代から始まりました。

1955年
秩父宮妃殿下が真締川畔に「白バラ不二」をお手植えされました。

1956年
「宇部を花で埋める会」（会長：宇部商工会議所会頭）が市民の花をバラ（※）と決めました。

（※）現在の市花は「サルビア」と「つつじ」です。
（P８の「花いっぱい運動」参照）

1990年
宇部市出身の原田一雄氏により、つる性ミニバラの「宇部小町」が作出されました。

2013年
山口宇部空港に薔薇(バラ)園が整備されました。(現在では、約１６０品種・約1,０００株が植栽されています。)

現　在
中心市街地には約８０品種・約４２０株のバラが植栽されています。

現在では、ときわ公園をはじめ、空の玄関口である山口宇部空港にも多くのバラが植えられて、開花期には人気のスポットになっています。また、中心市街地にも植栽されていることから、市内の多くの場所で楽しむことができ、宇部市らしさを表す重要な花の一つとなっています。

宇部小町▶





Garden
City
UBE

第Ⅲ章

緑と花と彫刻のまち宇部の現状と課題

1「緑と花と彫刻のまち宇部」の現状

主な現状について、大きく「空間」、「人材」、「花苗の生産」の3つに分類しました。



▲ときわ公園の全景

◇：強み　　◆：弱み

空間に関する現状

◇ときわ公園は、周遊園路や花いっぱい運動記念ガーデンなど、四季折々の緑や花が楽しめる空間が広がり、「緑と花と彫刻のまち」のシンボルとして、市民の憩いの場であるとともに、貴重な観光資源となっている。

◇中心市街地（約140ha）は、南北方向には水の軸として二級河川である真締川を有し、東西方向には緑の軸として国道190号とシンボルロード（宇部新川駅前広場～国道190号中央町交差点）を有している。

◇2017年から、シンボルロードを中心に「まちなか緑と花の回廊づくり」事業を進めている。

◇中心市街地には数多くの野外彫刻を設置している。

◆真締川公園は、整備後、長い年月が経過しており、樹木が密集して開放感がなくなっている。

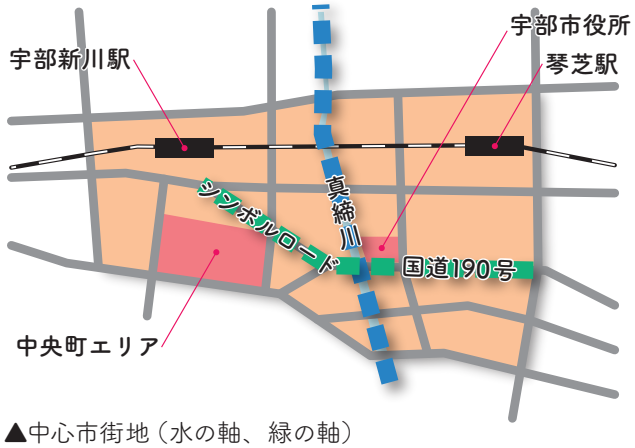
◇市制施行100周年の節目に向けて、老朽化した市本庁舎の建て替えを進めている。

◆緑や彫刻に比べて、中心市街地に花を感じられる空間が少ない。

◆宇部駅周辺や宇部新川駅周辺に緑や花と彫刻が調和した空間が少ない。

◇空の玄関口である山口宇部空港では、約160品種・約1,000株のバラが咲き誇る薔薇園が整備され、開花期には賑わいがある。

◇楠こもれびの郷やアクトビレッジおのは、北部地域の交流の場となっており、施設内にはバラやハーブなどが植栽されている。



▲中心市街地（水の軸、緑の軸）



▲真締川公園



▲野外彫刻

▼花に詳しい人材



人材に関する現状

◇花壇コンクールは、５０年以上の歴史を誇り、２０１８年の秋には114回を迎えた。
◆花壇コンクール参加者の高齢化が進んでいる。
◇若い世代から花に興味を持ってもらえるよう、花壇コンクールに小・中・高等学校の部門を新設した。
◆花木に関する総合的な知識を持った人材が少ない。
◇花の育て方スクールなど花に関する講座やイベントを開催している。

花苗の生産に関する現状

◆花壇コンクール用の花苗は、春・秋あわせて年間約６０万本を市職員とボランティアで栽培している。
◆花の種類は、コンクール形式で同時に配布するため、春・秋各５種類と少ない。
◆少子高齢化や後継者問題などで生産農家が減少している。
◆北部地域を中心に遊休農地が点在している。

その他の現状

◆流通量が多い隣接市の花き市場に市場関係者が移行し、本市の市場への流通が減少している。
◇農業分野に、生産性、効率性を高めるため、ICT 技術の導入が始まっている。
◇宇部の名前のついた、つる性ミニバラ「宇部小町」の栽培を進めている。
◇山口宇部空港と韓国仁川国際空港間の国際定期便や、台湾などとの国際チャーター便の就航により、外国人観光客が増えている。
◆中心市街地の賑わいが少ない。
◇２０１８年６月に SDGs 未来都市に選定され、持続可能なまちづくりを進めている。

2 有識者や市民意見等

本構想の市民ワークショップの中で「健康促進のためのガーデンセラピーの普及」や「花のまちづくりを進める他都市との交流」、「国内だけでなく、国外に向けた情報発信を強化する」などの提案をいただきました。また、緑と花のまちづくりを継続するための必要な仕組みについてアンケート調査を行った結果、「地域や自治会など、市民を巻き込む仕組み（住民参加）づくりが必要」などの意見が出ました。

▼主なアンケート結果

「緑と花のまちづくり」を継続していくために必要なしくみは何ですか。

・市民の意識、関心を持つこと
・皆が協力、参加すること
・知らない人にどんどん宣伝していく
・今あることを十分に活用して、新しいことは少しずつ取り入れていく
・だんだん増えていく植物を植える
・楽しんでできること
・市民がやりたくなる仕組み、巻き込む仕組み
・皆に認められる
・人口を増やしていく
・人の輪
・たくさん、又は少しでも参加ができる仕組み

3 課題の整理

以上のことを踏まえて、「空間」、「人材」、「花苗の生産」の3つの視点などから課題を抽出し整理します。

現状 ◇：強み　◆：弱み	課題
空間	
◇ ときわ公園は緑と花と彫刻のシンボルである ・四季折々の緑や花が楽しめる ・市民の憩いの場である ◇ 中心市街地は水の軸と緑の軸を有している ◇「まちなか緑と花の回廊づくり」を進めている ◇ 数多くの野外彫刻を設置している ◆ 真締川公園の樹木が密集し開放感がなくなっている ◇ 老朽化した市本庁舎の建て替えを進めている ◆ 中心市街地に花を感じられる空間が少ない ◆ 宇部駅周辺や宇部新川駅周辺に緑や花と彫刻が調和した空間が少ない ◇ 山口宇部空港は薔薇園が整備され賑わっている ◇ 楠こもれびの郷やアクトビレッジおのは、北部地域の中心的な交流の場となっている	・緑と花と彫刻のまちの拠点づくりによる更なる魅力の創出 ・緑や花と彫刻が調和した空間の創出 ・中心市街地を緑と花と彫刻のまちの顔として魅力を高める ・真締川公園の開放感を高める ・花を身近に感じられる空間の創出 ・市の玄関口として相応しい魅力の創出 ・北部地域の拠点として更なる魅力の創出
人材	
◇ 花壇コンクールには歴史がある ・小中高等学校の部門を新設 ◆ 花壇コンクール参加者の高齢化が進んでいる ◆ 花木に関する深い知識を持った人材が少ない ◇ 花に関する講座やイベントを開催している	・学校との連携を深める ・花木に関する専門的知識を持った人材の育成 ・花に関する講座やイベントの充実
花苗の生産	
◆ 花壇コンクール ・生産苗の種類が少ない ・市職員とボランティアで苗を栽培 ◆ 生産農家が減少している ◆ 遊休農地が点在している	・花壇コンクール用の花苗の生産体制の強化 ・花き産業の活性化 ・遊休農地の活用
その他	
◆ 隣接市の花き市場へ関係者が移行している ◇ ICT 技術を農業に導入する傾向がある ◇ 宇部小町の栽培 ◇ 外国人の観光客が増えている ◆ 中心市街地の賑わいが少ない ◇ SDGs 未来都市に選定される	・生産、流通のシステムの構築 ・ICT 技術の導入 ・宇部小町などを使ったブランドの創出 ・国際的なイベントの創出 ・中心市街地の賑わいづくり ・SDGs のまちづくりを進める

Garden
City
UBE

第Ⅳ章

ガーデンシティうべ構想の基本理念とテーマ

1. 基本理念

本市では、これまで「緑と花と彫刻のまちづくり」を官民が一体となって取り組んできたことから、「花を育てよう」「花を飾ろう」という市民文化が育まれています。

このような本市の誇れる取り組みを次世代に継承し、さらに持続的に発展させていくためには、市民自らが、楽しみながらまちづくりを行い、いつも花が咲き乱れ、四季それぞれの楽しみを感じ、うるおいの豊かな生活を実現していくことが大切です。

これにより、住んでいるまちの価値も市民で作りあげていくことになります。

「緑と花と彫刻のまちづくり」の新たなステージとして、
ガーデンシティうべを目指した様々な取り組みを全市的に展開するために、
本構想の基本理念を以下のとおりとします。

基本理念

花と緑にあふれ、
市民が輝き誇りを持ち、
人々の暮らしを豊かにする
持続可能なまちづくりを目指す

UBE IN BLOOM

～花につつまれるまち うべ～

IN BLOOM とは、花が咲き誇る様子を意味しています。

2. テーマ

本市が抱える課題を踏まえて、以下の３つをガーデンシティうべのテーマとして、取り組みを進めます。



「まちを育てる」

＊緑と花と彫刻が調和したまち
＊心豊かに暮らせるまち
＊世界に誇れるまち

市役所周辺などの拠点整備や、中心市街地を対象とした重点地区づくりなど、バラを中心に四季折々の花が咲く、ガーデンシティの基盤となる整備を市民と共に取り組みます。

「ひとを育てる」

＊学ぶ
＊交流する
＊広がる

ガーデンマイスター制度の創設や市民団体との交流、ワークショップなどを通じ、これまで以上に市民がガーデンシティの主役となるための人材育成や文化醸成に取り組みます。

「花を育てる」

＊市民参加
＊産業化
＊農業の活性化

需要の掘り起こしやうべブランドの創出、ガーデンシティを支える生産農家の育成などにより、地域産業の振興に取り組みます。

3. 循環構造

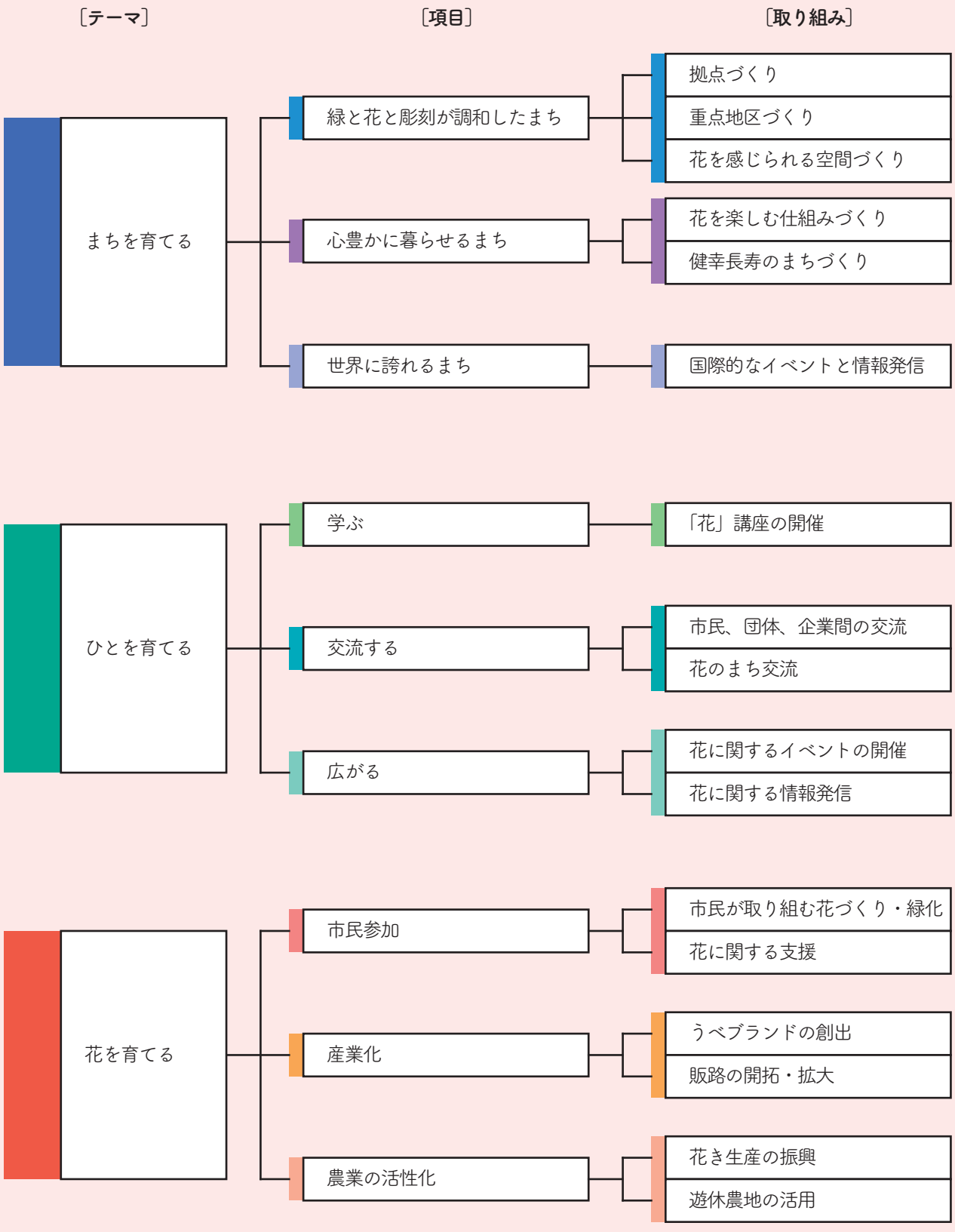
３つのテーマの取り組みが循環することにより、基本理念を実現し、持続可能な開発目標（SDGs）の達成につなげます。



循環構造概念図　　基本理念　　持続可能な開発目標（SDGs）

4. 体系図

3つのテーマにそれぞれ項目を設定し、各項目について取り組む内容を設定します。



5. イメージ図

ガーデンシティうべ を表すイメージ図は以下のようになります。

花と緑にあふれ、市民が輝き誇りを持ち、

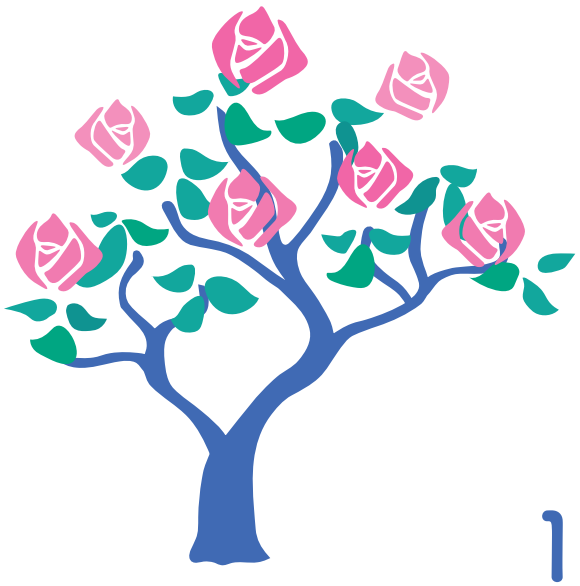
人々の暮らしを豊かにする持続可能なまちづくりを目指します。



Garden
City
UBE

第Ⅴ章

具体的な取り組み



1

まちを育てる

＊緑と花と彫刻が調和したまち

＊心豊かに暮らせるまち

＊世界に誇れるまち

市役所周辺などの拠点整備や、中心市街地を対象とした重点地区づくりなど、バラを中心に四季折々の花が咲く、ガーデンシティの基盤となる整備を市民と共に取り組みます。

緑と花と彫刻にあふれたまちの拠点

市本庁舎の建て替えにあわせた市役所周辺の整備や、ときわ公園のさらなる魅力アップに取り組みます。本市の玄関口である山口宇部空港や宇部駅周辺をウェルカムゾーンとし、楠こもれびの郷やアクトビレッジおのを北部地域の拠点として緑や花、彫刻のまちの印象づくりを進めます。



Action Plan

市役所周辺

・市本庁舎には、ガーデンシティの庁舎に相応しい壁面緑化を、庁舎敷地内には、シンボリックな彫刻を配置するとともに、その周辺では緑や花と彫刻が調和した空間づくりを行います。

ときわ公園

・花いっぱい運動記念ガーデンやぼたん苑、彫刻の丘など既存の施設を中心に、四季折々の花が楽しめる空間を創出するとともに、動物園や世界を旅する植物館の魅力づくりを積極的に行い、来園者の滞在時間の延長や満足度の向上を図ります。



▲花いっぱい運動記念ガーデン

ウェルカムゾーン



▲山口宇部空港ターミナルビル周辺

山口宇部空港

・山口宇部空港のターミナルビル周辺では、約160品種・約1,000株のバラが咲き誇る薔薇園が整備され、開花期には人気のスポットになっています。引き続き、本市の空の玄関口として魅力向上を図ります。



▲山口宇部空港　薔薇園マップ

宇部駅周辺

・本市の西の玄関口である宇部駅周辺には、アイキャッチ効果の高いフラワーウェルカムゲートやプランターなどを設置し、緑と花と彫刻のまちの印象を与える空間づくりを進めます。



▲宇部駅の現在の様子

北部地域の拠点



▲楠こもれびの郷



▲アクトビレッジおの ハーブ園

楠こもれびの郷

・北部地域の農林業の振興と、地域活性化の交流拠点である楠こもれびの郷は、バラを植栽している既存の花壇など周辺施設を活用して、緑と花と彫刻が調和した空間づくりを行います。

アクトビレッジおの

・小中学校を対象とした環境教育と交流の拠点であり、施設内には年間を通じて楽しめるハーブ園や芝桜などが植栽され、自然豊かな環境整備を行っています。これら既存施設を活用し、「緑と花と彫刻のまち 宇部」ならではの空間づくりを行い、引き続き、北部地域の交流拠点として更なる魅力の向上を図ります。

市民が誇れる“ガーデンシティうべ”の顔

中心市街地（約１４０ｈａ）を重点地区として位置付け、拠点のひとつである市役所周辺を含め、“ガーデンシティうべ”の顔となるよう、緑と花があふれ彫刻と調和した魅力ある空間づくりを行い、賑わいの創出を図ります。



Garden Road

ガーデンロード
（シンボルロード・国道190号）
Garden Road

・緑の軸であるシンボルロード（市道常盤通り宇部新川駅線）及び国道190号（中央町交差点～松山町一丁目交差点）は、まちなか緑と花の回廊づくりの充実を図るため、広い歩道空間につるバラなどを装飾し、既存花壇はバラを中心とした花木を植栽することで、華やかなまちのメインストリートとして生まれ変わらせます。





Garden River

ガーデンリバー（真締川）
Garden River

・本市の南北軸であり、水の軸である真締川公園の既存の植栽を間伐し、採光や風通しをよくするとともに、バラなどの花木を植栽して、誰もがくつろぎ、癒される空間を創出します。

Garden Spot

ガーデンスポット（中央町エリア）
Garden Spot

・中央街区公園（わいわいぱぁ〜く）や多世代交流スペース、ポケットパークなど中央町エリアの緑や花を充実させ、賑わいを創出する魅力ある空間づくりを進めます。



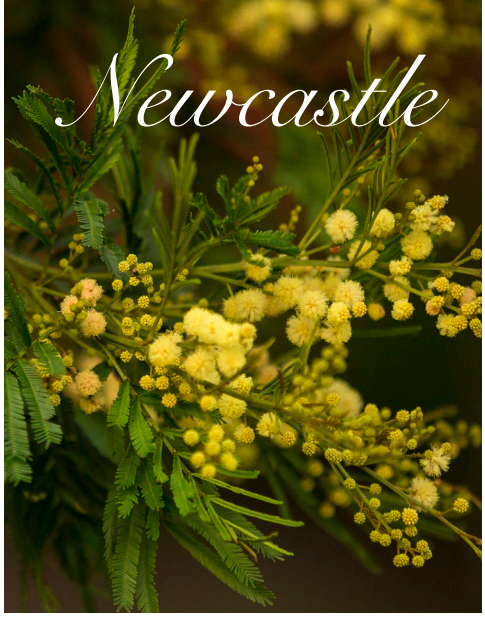
▲中央街区公園（わいわいぱぁ〜く）

ローズストリート（新天町名店街など）
Rose Street

・商店街につるバラや寄せ植えを飾り、ローズストリートに生まれ変わらせます。これにより、商店街を通る人々の活発なコミュニケーションや賑わいの創出を図ります。

Rose Street

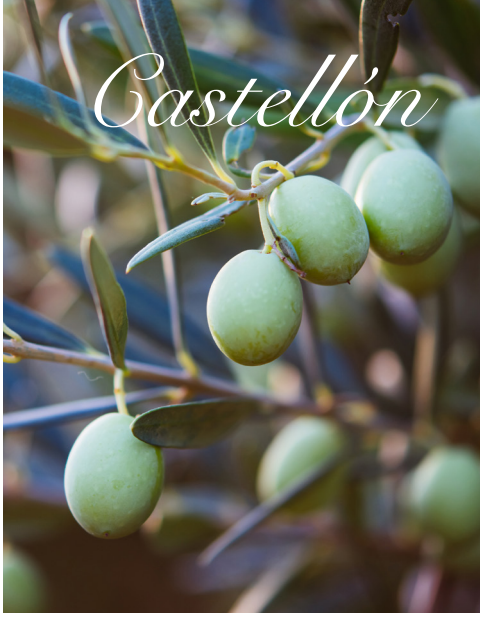




▲ミモザ



▲ネムノキ



▲オリーブ

World Street

ワールドストリート（市道小串通り線など）

World Street

・市道小串通り線を中心に、姉妹都市等（オーストラリア・ニューカッスル市、中国・威海市、スペイン・カステジョン市）がイメージできる樹木や花を植栽したワールドストリートを創出します。

新しい景色を作りだす（花・緑と調和した彫刻配置計画）

Flower & Art

・緑や花と彫刻が調和した新たな景色を作りだし、緑と花と彫刻のまち宇部ならではの空間づくりを進めていきます。

Flower & Art

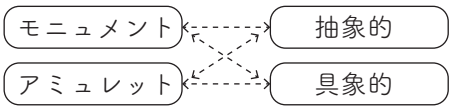


花・緑と調和した彫刻配置計画

彫刻周辺整備については、彫刻の素材、形状、抽象性、具象性、時代、テーマ 等も考慮し、
空間全体を意識した植栽をします。

・彫刻の特徴に応じた整備を行います。

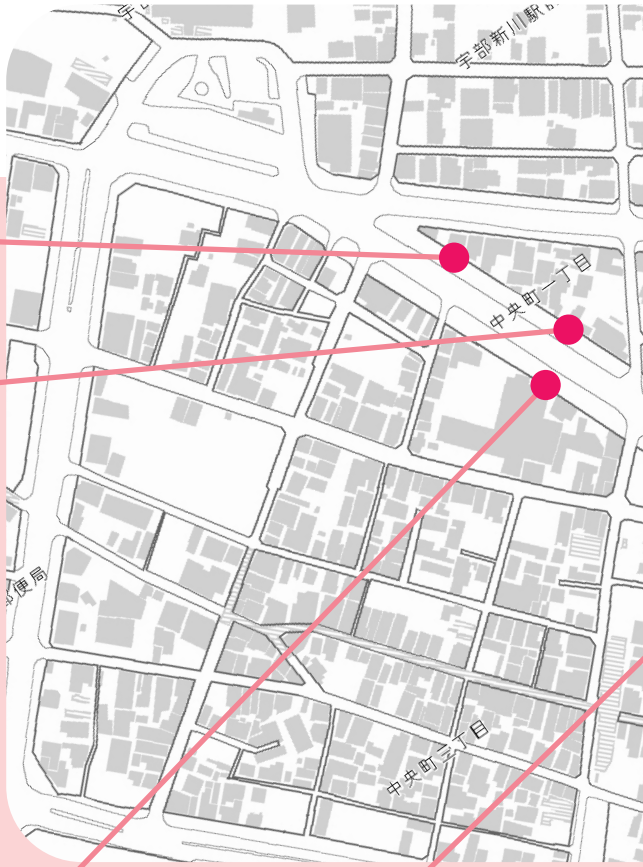
例



モニュメント（※）：象徴性が強調されるよう植栽や花で包みます
アミュレット（※）：彫刻が埋もれないよう、芝生等で囲みます
抽象的：外的要素を減らすよう、単一種で構成します
具象的：彫刻の印象に合わせて混植も検討します

・車道側は全て花でつなぐなど、車道からのビューを意識した植栽計画を行います
・歩いて楽しめるよう奥行き感のある整備や、座った際に楽しめるような視点での整備を行います
・分電盤等、設備機器等は常緑低木等で隠します

（※）「モニュメント」象徴的で、その場所のランドマークに
なりえる作品。主には離れて鑑賞するものが多い。
「アミュレット」身近に感じられる作品。例えば、
お地蔵さまのように近づいて鑑賞するものが多い。



ノアの家族



モニュメント × 具象的

Transfiguration “LINK” 7



モニュメント × 抽象的

風の中の鴉



アミュレット × 抽象的

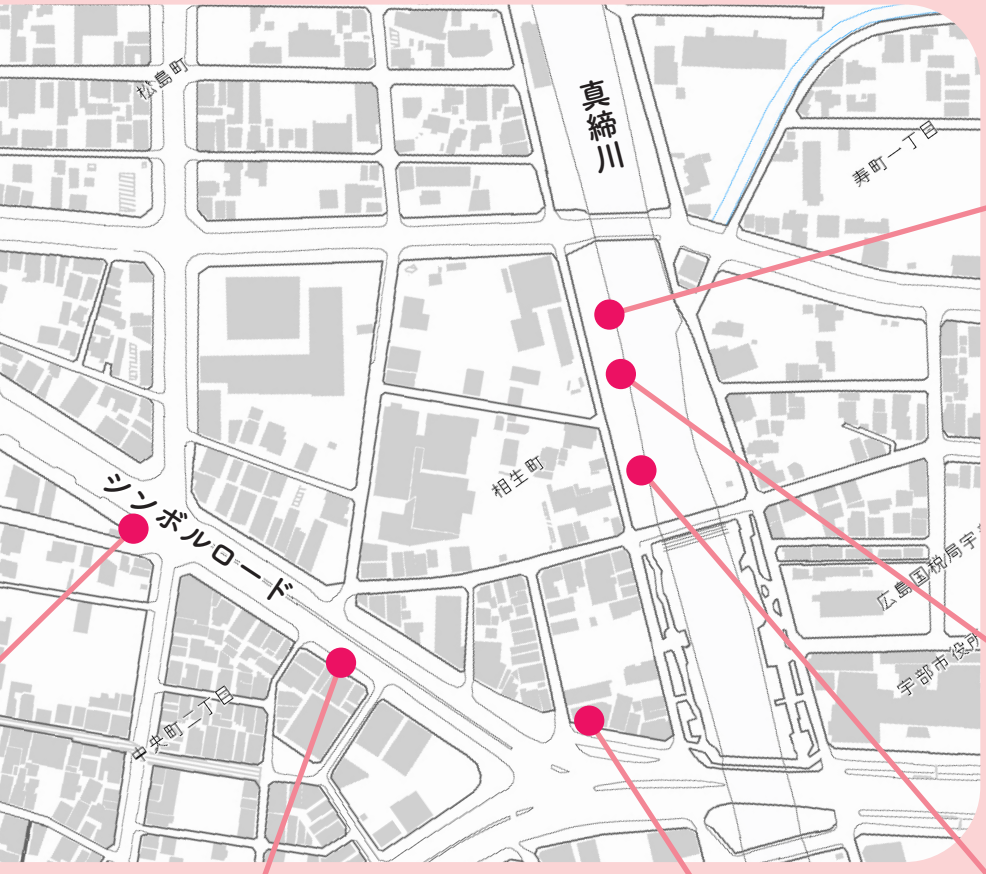
メッセージ



アミュレット × 具象的



モニュメント × 抽象的 配置計画イメージ



UNTITLED 01-A



モニュメント × 抽象的

作品 65-3



アミュレット × 抽象的

共生



モニュメント × 抽象的

宵



アミュレット × 具象的

風景の抜け殻



モニュメント × 抽象的

花を感じられる空間が
いつでも身近に存在する

まちなか緑と花の回廊づくりを継続かつ充実させるとともに、市民や事業者との協働によりバラを中心として四季折々だれもが簡単に楽しみながら栽培できる品種を選定し、市内のいたるところで花や緑を感じられる空間をつくります。

Action Plan

一年中花を感じられる空間づくり

・年間を通して花を楽しむために、だれもが簡単に栽培できる品種を選定し、一年草だけでなく、耐寒性を持った多年草や宿根草、花木も取り入れた花壇づくりを進めます。

暮らし・交流の場で花を感じられる空間づくり

・ふれあいセンターなど住み慣れた地域の拠点や、市内外の人が訪れる交流の拠点等において、ガーデンシティうべを実感させる空間づくりを進めます。

・市街地にある公的な低未利用地の活用について検討を進めます。

個性を生かした空間づくり

・市木・花や、特産品である「お茶」の木（茶の木）を活用し、市の個性を生かした空間づくりを進めます。





フラワーロード東岐波▶



花壇コンクールの充実

・歴史ある花壇コンクールを今後も継続し、更なる充実を図り、市内外に広める取り組みを行います。

プロデュース花壇への支援

・地域の公園（街区公園や開発公園など）や公共的な土地に、市民自らが花壇をデザインし整備する取り組みを進めます。

プロデュース花壇▶



オープンガーデンの促進

・個人や企業などが育てた花壇を公開してもらう「オープンガーデン」を促進し、まち全体で花を楽しむ環境づくりを進めます。



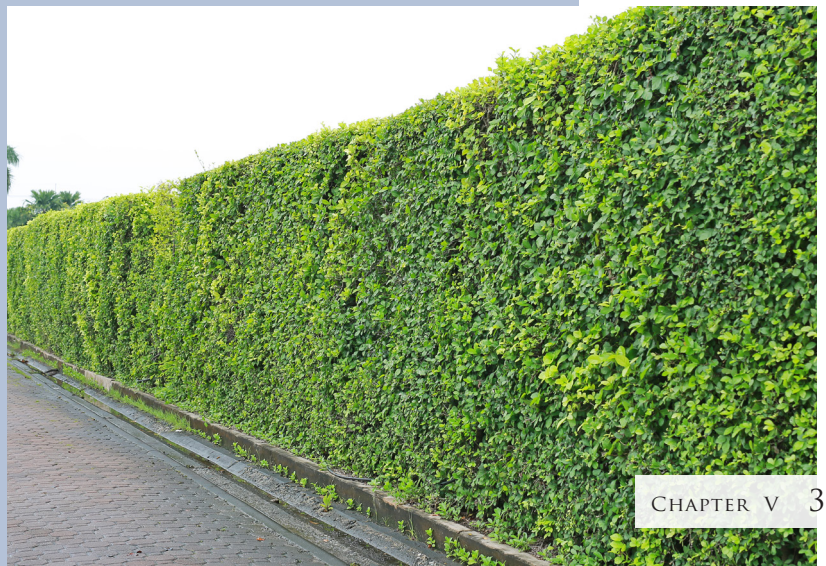
宅地内緑化の促進

・公道に面した民有地の境界に、生垣や花壇などの緑化を推奨し、まちなみと調和した、うるおいの感じられる空間づくりを進めます。

景観作物の植栽

・道路沿いや中山間地域の遊休農地への景観作物の植栽を推進し、スケールメリットを生かした観光資源等として再生を図ります。

・花の種は購入するだけではなく、他の地域で採種した種を有効活用できる仕組みを構築します。



花を楽しむ市民でいっぱい

花を楽しむ、また花に親しみや愛情が持てるよう、ガーデンシティうべの考えを多様な世代に伝えて裾野を広げていきます。

Action Plan



▲花回廊マップ

楽しみながらまちなかを回遊

・花回廊マップやローズストリートマップ（仮称）などを作成するとともに、主要な花や樹木の銘板、各ストリートのサインを設置するなど、まちなかをゆっくりと楽しみながら回遊できる仕組みづくりを進めます。

ガーデンカフェの誘致

・真締川公園やシンボルロード沿いを中心に、緑や花、彫刻が自然と目に入るような場所にオープンガーデンカフェ等の誘致を進めます。





Action Plan

“花と緑”で健幸長寿

市民が健康で幸せに暮らすため、緑と花による健康促進のまちづくりを進めます。





ガーデニングイベントや緑と花を楽しむウォーキングの開催

・ガーデニングを体験するイベント等の開催や、緑と花が充実し、市民が歩きたくなるルートの整備を行い、花がもたらすリラックス効果で健康促進につなげます。

五感を刺激する場の普及

・医療・介護福祉施設等で、利用者自らが植物を育てたり、その場で五感を刺激する（形や色を見て〈視覚〉、触ってみて〈触覚〉、匂いを感じ〈嗅覚〉、風に揺れる音を聞き〈聴覚〉、実などを食す〈味覚〉）ことで癒し効果やグループでの作業で社会性を保つことにつながるセラピーガーデンの普及に努めます。

ガーデンセラピーに対する支援

・セラピストなどによる講演会や、専門家によるセラピーガーデンの作り方講座の開催などを支援し、普及に努めます。

“ガーデンシティうべ”を世界に

２０２０年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機とした効果的な情報発信や花に関連した国際的なイベントの開催などを通じて、国内外から愛好家や観光客を呼び込みます。

Action Plan



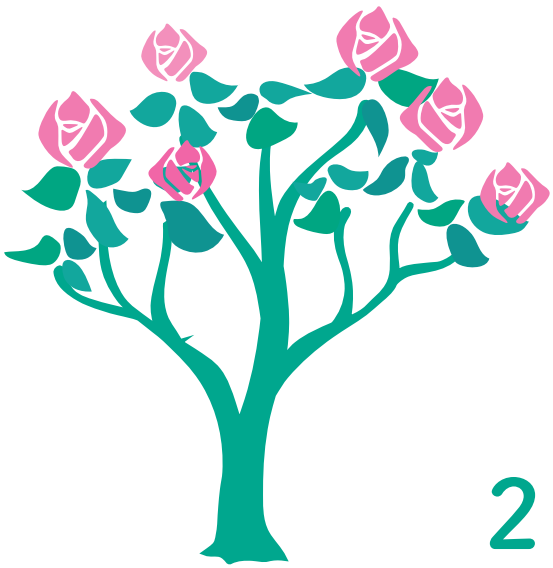


花を通じて世界に発信

・『世界バラ会連合第２０回世界大会』（２０２４年開催）の開催地である広島県福山市と連携を図り、同大会でガーデンシティうべの魅力を世界に発信していきます。

・世界中からバラの専門家や愛好家を集めたバラコンテストなど国際的なイベントの開催を目指します。

・花回廊マップや SNS などを多言語化し海外へ発信します。



2

ひとを育てる

＊学ぶ

＊交流する

＊広がる

ガーデンマイスター制度の創設や市民団体との交流、ワークショップなどを通じ、これまで以上に市民がガーデンシティの主役となるための人材育成や文化醸成に取り組みます。



頼れるガーデニング専門家「ガーデンマイスター」

ガーデンシティうべを支える専門家「ガーデンマイスター」を養成する制度を創設するなど、初心者からエキスパートまで花づくりを学べる場を作ります。





Action Plan

ガーデンマイスター制度の創設

・花やガーデニングに関する総合的な知識と経験をもつガーデンマイスターを養成する講座を開催し、ガーデンマイスターとして認定します。

・ガーデンマイスター認定者は、有償で、花苗の栽培やまちなか花壇の植栽、維持管理活動のほか、イベント企画や講演会、出張講座等を開催するなど、ガーデンシティうべを支える専門家として活躍してもらいます。







花の育て方スクール等の開催

・ガーデニングに興味を持ってもらうため、花の育て方スクールや技術力に応じた花づくり講習会を開催します。

花づくりのガイドブックの制作

・「花づくりのガイドブック」を制作し、花づくりへの活用や、講座や学校などの教材として活用していきます。

花育授業の実施

・若い世代の花への関心を高めるため、小中学校などにガーデンマイスターを派遣し、花育授業を実施します。

交流の輪を広げ、ガーデニング仲間を増やそう

個人や市民団体、企業などが、互いに刺激を受けさらに活動が活発となるよう、花づくりやガーデニングの情報を交換する場を作ります。

Action Plan









交流イベント等の開催

・合同植栽イベントや不要となったプランターなどの交換会、自宅の花苗株分け交換会など、個人から団体までを対象とした様々な交流イベントを開催します。

・オープンガーデン内覧会の開催を促進し、個人、団体を問わず、さらなるガーデニング力向上へとつなげます。

・有識者によるシンポジウムやガーデンマイスターによる講座などを開催し、花づくりに対する関心を高めます。

・現在活動中のボランティア団体との交流、情報交換、団体同士が協力しあうことにより、互いにレベルアップあるいは省力化につなげることを目指します。

緑や花でつながる
ガーデンシティ交流

緑と花のまちづくりが盛んな他都市との交流やガーデンツアーを実施し、市域内外の交流を促進します。

Action Plan





専門職のスキルアップ交流

・他都市の専門家などとの交流や連携を深め、職員や市民の技術力向上に努めます。

ガーデンシティ交流

・ガーデンシティを目指している都市間で、交流会や連携イベント、研修会などを開催し、ガーデンシティの推進に向けた情報・意見の交換を活発に進めます。

ガーデンツアーの実施

・花壇コンクール、オープンガーデン、まちなか花壇などを併せたガーデンツアーを企画実施することで、市民の花づくりの機運を高めていきます。

多世代にわたり
花の文化を継承しよう

花と緑に関するイベント等を開催することで、市民が花に親しみ、関心を高める機会をつくります。

Action Plan



花に関する様々なイベントの開催

・フラワーリース、寄せ植え、ハンギングバスケットなどのコンテストや花マルシェやバラ湯など、様々な世代が花に親しむイベントを開催します。

花づくり体験で意欲高揚

・花づくりやガーデニングの体験を通し、小中学生など若い世代の花づくりへの興味・意欲を高めていきます。

市民ワークショップの開催

・地域、自治会、学校、企業などを対象とした、様々な形式のワークショップを開催し、ガーデンシティうべの取り組みへの参画を促します。









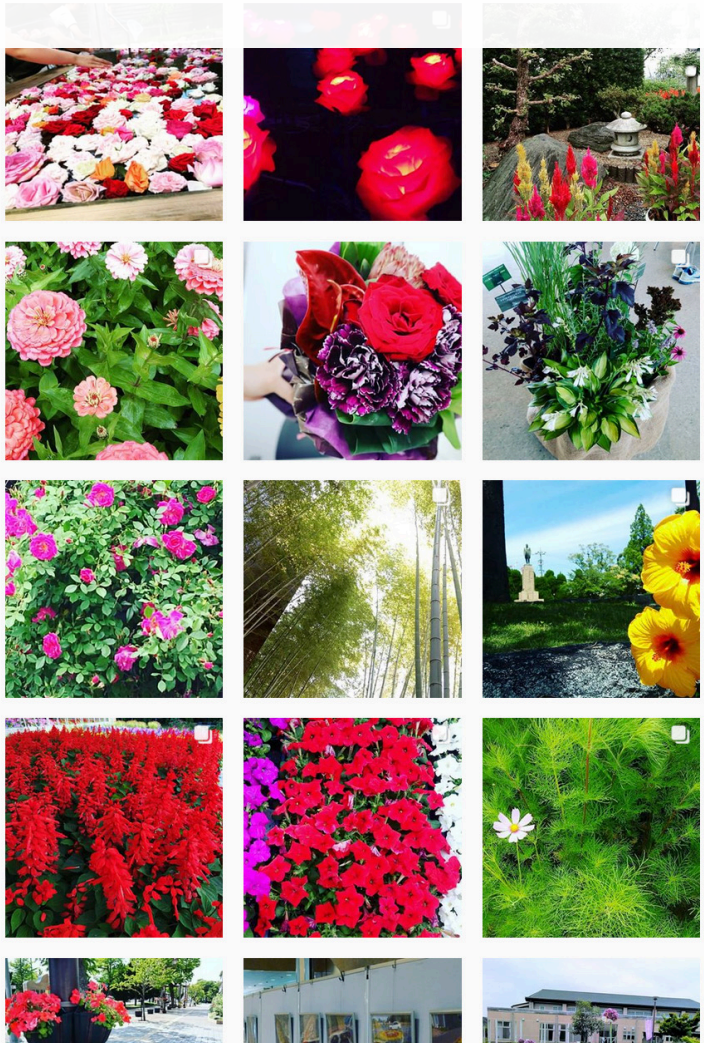


多くの人に“ガーデンシティうべ”を知ってもらおう

ガーデンシティうべの取り組みの広報に加え、イベント情報、花の育て方や季節、地域ごとの見頃な花情報など、広く花に関する情報を発信し、市民の関心を高めます。
また、市内外への発信としてインターネットやＳＮＳなども積極的に活用します。



ガーデンシティうべ構想
キャラクター
うべまちこ



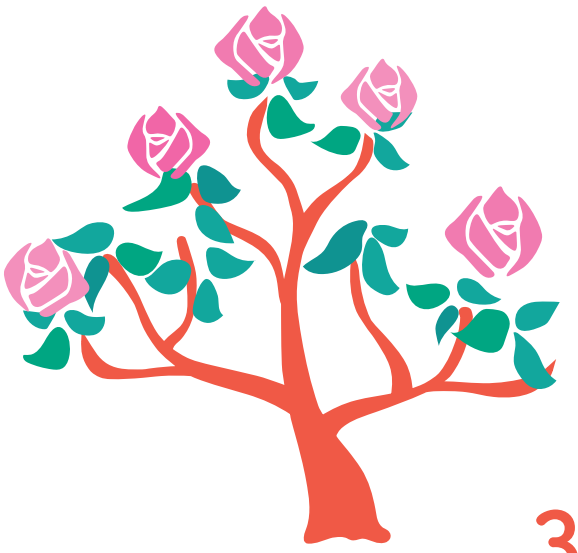
Action Plan

積極的な情報発信

・ガーデンシティうべのホームページを立ち上げます。開花情報など花に関するフレッシュな情報は、SNS などでリアルタイムに発信していきます。

また、ハッシュタグ投稿なども受け付け、市民からの情報発信も活用していきます。

・ガーデンシティうべの取り組みや魅力などの掲載を、専門情報誌へ働きかけます。また、イベント情報など地域情報は、広報紙やホームページを通じて発信します。



3

花を育てる

＊市民参加

＊産業化

＊農業の活性化

需要の掘り起こしやうべブランドの創出、ガーデンシティを支える生産農家の育成などにより、地域産業の振興に取り組みます。

市民協働の花づくり

花づくりやガーデニングを好きな市民が、積極的にまちづくりに関与できる、市民協働の花づくりを促進します。



Action Plan

市民主体の花づくり

・自宅で育てた花苗などを「まちづくり」に生かす機会を創出し、市民の花のまちづくりへの取り組みを進めます。

・ガーデンマイスターが、有償で花壇コンクールやガーデンシティで使用する花苗などを栽培します。



充実した緑や花のバックアップ

花のまちづくりに対する市民等の活動を支援します。

Action Plan

花づくり寄付金制度の検討

・市民や企業などを対象とした花づくりスポンサーや寄付金制度を検討します。

花づくり相談窓口の開設

・ガーデンマイスターによる花づくりをする市民向けの相談窓口を開設します。

花づくりのガイドブックの制作（再掲）

・「花づくりのガイドブック」を制作し、花づくりへの活用や、講座や学校などの教材として活用していきます。

オンリーワンのうべブランド

オリジナルの花の生産や、それを加工した様々な商品開発など、
うべブランドとして確立させる土台づくりを支援します。

Action Plan



▲宇部小町

宇部小町の商品化

・宇部で育てたつる性ミニバラ「宇部小町」の鉢植えやハーバリウムなどの商品化を支援します。

宇部オリジナルバラの開発

・宇部オリジナルのバラの開発や、ブランド化、産業化を支援します。

花に関する食品（商品）の開発

・宇部で生産した花を用いたオリジナルエディブルフラワーやオーガニック食品の開発を進めるとともに、市内での販売や、カフェ・レストランへ流通を支援します。

・菜の花や椿の植栽を推奨し、花から採取した油（菜種油や椿油）の商品化を支援します。





アイデアを出し合い販路を広げよう

生産者、販売業者とともに、花きの需要の掘り起こしや販路開拓等を進めます。

Action Plan



需要の掘り起こし

・花壇コンクール用の花苗などは、生産者と調整を図りながらアウトソーシングを行い、段階的に生産者へ移行していきます。

・公共施設や企業などの窓口や公共工事現場などへ、イメージアップのための花の装飾を推奨します。

・病院や介護施設などでのガーデンセラピーを推奨します。

・市が実施する事業での積極的な花の活用や、人生の記念日での花のプレゼントを推奨します。



販路の開拓・拡大

・市内販売店への販売ルートの拡充を支援します。

・販売について、インターネットマーケットを活用するなど、国内外への販路拡大を支援します。

・流通拠点として、宇部港や山口宇部空港の活用も検討します。

生産・流通の新たなシステムの検討

・市民へ高品質で安価な花苗等を供給するため、市民と生産者をつなぐ、生産から流通までの一貫したシステムの構築を検討します。



花き生産を盛り上げよう

生産体制の強化や生産物の質の向上を図るために、生産者の確保やスキルアップ、後継者問題の解消などに取り組みます。

Action Plan



花苗の生産の拡大

・切り花に加え、花苗や宿根草の生産を拡大し、ガーデンシティうべへの活用を図ります。

営農法人化・企業参入

・一定規模の土地について、複数の生産者が共同で生産し、効率的な生産体制が確保できる営農法人化や新たな企業の参入を支援します。

先進生産者の取り込み

・市内外の先進生産者にガーデンシティうべへの協力を促し、技術協力を仰ぐことで、市内生産者とともに新規事業の参入の可能性を探るなど、活発な活動につなげます。



新規就農者の確保

・山口県立農業大学校や市内の高等学校などと積極的に連携し、ガーデンシティうべの取り組みや補助制度などを紹介し、新規就農者の確保に努めます。

ICT、IoT の導入

・生産性の向上、省力化、効率性・安定性の確保のため、生産管理・発注管理などへの ICT、IoT 技術の導入を支援します。

・生産体制、経営マネジメントの強化のため、生産者の蓄積したデータに対し、大学やコンサルタントなどの専門家が分析・評価などを行うバックアップ体制の構築を図ります。

遊休農地を利用して
まちの活性化につなげよう

北部地域を中心に点在する遊休農地について、観光資源としての活用などに取り組みます。

Action Plan



景観作物の植栽（再掲）

・道路沿いや中山間地域の遊休農地への景観作物の植栽を推進し、スケールメリットを生かした観光資源等として再生を図ります。

・花の種は購入するだけではなく、他の地域で採種した種を有効活用できる仕組みを構築します。

バックヤードとして利用

・ガーデンマイスターが栽培する花苗用バックヤードとして、遊休農地の利用を検討します。



Garden
City
UBE

参考資料

計画スケジュール

空間整備事業　既存施設を活用した空間創出　ソフト事業

テーマ	項目	取り組み	Action Plan	事業主体		目標値（後期実計）	年度 2018	2019	2020	2021	2022	2023～	備考
							第四次宇部市総合計画後期実行計画				第五次		
							短期					中期	
まちを育てる	緑と花と彫刻が調和したまち	拠点づくり	市役所周辺	公		整備率　53.5%							・・設計業務
			ときわ公園	公	民	累計入園者数 80万人							
			山口宇部空港		民	－							山口県との連携
			宇部駅周辺	公	民	－							・・駅前広場整備までの間、既存施設活用
			楠こもれびの郷	公	民	－							
			アクトビレッジおの	公	民	－							
		重点地区づくり	ガーデンロード（シンボルロード・国道190号）	公		整備率　100%							
			ガーデンリバー（真締川）	公		整備率　100%							
			中央町ガーデンスポット	公		整備率　100%							・・設計業務
			商店街ローズストリート	公	民	－							
			ワールドストリート	公		整備延長　400m							
			新しい景色を作りだす	公		整備率　100%							
		花を感じられる空間づくり	一年中花を感じられる空間づくり	公	民	－							
			暮らし・交流の場で花を感じられる空間づくり	公	民	整備箇所 1箇所/年							
			個性を生かした空間づくり	公		－							
			花壇コンクールの充実	公		新規登録学校数 5校（累計）							
			プロデュース花壇への支援	公	民	整備箇所 1箇所/年							
			オープンガーデンの促進		民	開催件数 20件（累計）							
			宅地内緑化の促進		民	－							
			景観作物の植栽		民	遊休農地の活用 1件/年							
	心豊かに暮らせるまち	花を楽しむ仕組みづくり	楽しみながらまちなかを回遊	公		マップ、サインの作成							
			ガーデンカフェの誘致		民	出店数　1件/年							
		健幸長寿のまちづくり	ガーデニングイベントや緑と花を楽しむウォーキングの開催	公	民	ガーデニングイベントの開催2回/年							
			五感を刺激する場の普及		民	－							
			ガーデンセラピーに対する支援		民	－							
	世界に誇れるまち	国際的なイベントと情報発信	花を通じて世界に発信	公		－							

テーマ	項目	取り組み	Action Plan	事業主体		目標値（後期実計）	年度 第四次宇部市総合計画後期実行計画 短期 2018	2019	2020	2021	2022	第五次 中期 2023～	備考
ひとを育てる	学ぶ	「花」講座の開催	ガーデンマイスター制度の創設	公		8人/年の認定							・・2018年度制度創設
			花の育て方スクール等の開催	公		50人/年の受講							
			花づくりのガイドブックの制作	公	民	10,000部/年の発行							2019年度制作、以降更新
			花育授業の実施	公		1回/年の実施							・・マイスター養成
	交流する	市民、団体、企業間の交流	交流イベント等の開催	公	民	3回/年の開催							
		花のまち交流	専門職のスキルアップ交流	公	民	－							
			ガーデンシティ交流	公		－							
			ガーデンツアーの実施		民	1回/年の開催							旅行会社による実施
	広がる	花に関するイベントの開催	花に関する様々なイベントの開催	公	民	2回/年のイベント開催							
			市民ワークショップの開催	公	民	随時開催							
			花づくり体験で意欲高揚	公	民	1回/年の開催							
		花に関する情報発信	積極的な情報発信	公	民	HPの開設、運用							
花を育てる	市民参加	市民が取り組む花づくり・緑化	市民主体の花づくり		民	－							・・マイスター養成
		花に関する支援	花づくり寄付金制度の検討	公	民	－							2019年度創設、以降活用
			花づくり相談窓口の開設	公	民	2020年開設							・・マイスター養成
			花づくりのガイドブックの制作（再掲）	公	民	10,000部/年の発行							2019年度制作、以降更新
	産業化	うべブランドの創出	宇部小町の商品化	公	民	2020年に商品化							・・商品化の準備
			宇部オリジナルバラの開発		民	－							山口県農業試験場との連携
			花に関する食品（商品）の開発		民	－							
		販路の開拓・拡大	需要の掘り起こし	公	民	アウトソーシング 10万本/年（2021年）							
			販路の開拓・拡大	公	民	－							・・HPの活用準備
			生産・流通の新たなシステムの検討	公	民	2020年に構築							・・システム構築準備
	農業の活性化	花き生産の振興	花苗の生産の拡大	公	民	－							
			営農法人化・企業参入	公	民	－							
			先進生産者の取り込み	公	民	－							
			新規就農者の確保	公		－							・・地域おこし協力隊の募集
			ICT、IoTの導入	公	民	－							
		遊休農地の活用	景観作物の植栽（再掲）		民	遊休農地の活用 1件/年							
			バックヤードとして利用	公	民	－							

用語解説

	用語	説明
あ行	アイキャッチ効果	アイキャッチは和製英語で「視線を捉える」という意味を持つ。見る人の目を引き、興味を持たせ、見てもらう効果。
	アウトソーシング	外部（アウト）からの調達（ソーシング）を意味する。外部委託、外部調達、外注という意味。
	一年草	日本のような温帯地域において、春まき、または秋まきして1年以内に開花する植物。
	インターネットマーケット	Webサイトの形で開設され、登録した売り手の販売する商品を、買い手がオンラインで発注して購入するシステム。
	うべブランド	本市が持つ様々な有形・無形の地域資源等により、多くの人を引き付ける宇部市というまちのイメージのこと。
	宇部方式	戦後の本市の産業発展の過程で発生した「ばいじん汚染」から市民の生活環境を守るため、産官学民が相互信頼と協調の精神の下、法令や罰則に頼ることなく、科学的な調査データに基づく話し合いによって、全市民が一体となって取り組んだ宇部市独自の公害対策。
	営農法人化	稲作などの土地利用型農業をはじめ、施設園芸など、農業を営む人達の法人化。
	エディブルフラワー	植物の花を食材として用いること、また、食用に供せられる花のこと。
	オーガニック食品	人工の肥料、作物の成長を促進する薬物、細菌などの生物を殺傷する薬物のいずれも使用せずに生産された食品のこと。
	オープンガーデン	個人の庭を一定期間、一般の人に公開する活動。丹精込めた庭や花壇を開放し、訪れた人との交流を深めながら季節の植物を楽しむことが、まちやコミュニティに潤いを与える。
か行	ガーデニング	自分が所有する庭やベランダにおいて草花を植栽したり、柵や石畳などで装飾するなどして庭づくりを楽しむこと。
	ガーデンシティ	庭を意味するガーデン（garden）と、都市を意味するシティ（city）から成り、特定の都市の中に庭園のような環境があることを示唆する英語の表現。
	ガーデンセラピー	住まいに植物を取り入れ、日常的に様々な形で自然に接することにより、健康な暮らしと健康寿命の増進を実現する療法のこと。ガーデンセラピーを取り入れることにより、五感を刺激し、脳を活性化させることができる。

用語	説明
街区公園	市街地などの中にある公園の内、半径 250m 程度の街区に居住する人々が利用する 0.25ha を標準とする公園のこと。
開発公園	開発行為等により設置される公園のこと。
協働	市民と行政が一体となり、まちづくりを進めることや、地域での問題点などを解決していく形態のこと。
グローバル 500 賞	国連環境計画（UNEP）が、持続可能な開発の基盤である環境の保護および改善に功績のあった個人又は団体を表彰する制度。毎年６月５日の世界環境の日に同賞の授与式が行われており、本市は 1997 年に受賞した。2004 年からこの賞は地球大賞（Champion of the Earth）に置き換えられている。
景観作物	緑肥や雑草抑制、病害虫防除などに役立ち、農村の景観を豊かにする作物のこと。菜の花、レンゲ、コスモス、ひまわりなど。
さ行	
作出	新しい品種を作り出すこと。
次世代型農業	作業効率・生産性向上のため、ICT・IoT 等先端技術を活用した農業。
宿根草	生育に適さない冬期や乾燥期などには、地上部は枯れるが、地下部は生きていて、外界の条件がよくなれば再び発芽・開花する草。多年生植物。
シンボルロード	都市や地方の顔となる街路。本市では、市道常盤通り宇部新川駅線をシンボルロードとして位置付け、「緑と花と彫刻のまち宇部」にふさわしいうるおいのある都市景観を創出するために整備されている。
世界バラ会連合世界大会	世界４０か国のバラ会が加盟する世界バラ会連合（World Federation of Rose Societies）が３年に１度、開催する会議。会場となる都市は加盟国の投票で決定される。世界大会ではバラに関する講義やバラ園の視察等が行われるとともに、各種委員会の会議が開かれる。表彰委員会では「殿堂入りのバラ」として、世界中で愛培されているモダンローズとオールドローズの名花が１品種ずつ選ばれ、また、優秀庭園賞、書籍賞も審査・投票により選ばれて表彰される。
た行	
第四次宇部市総合計画後期実行計画	求める都市像とまちづくりの方針および基本的施策を明らかにし、本市の進むべき方向を明確に示した、市民と共有するまちづくりの指針となるもの。市財政の長期展望を踏まえながらまちづくりを計画的かつ効率的にする基本であり、市政運営の基礎となるもの。第四次総合計画は、2010 年度から 12 年間とし、後期は、2018 年度から 2021 年度までの期間。

用語	説明
多世代交流スペース	様々な活動や気軽に集う交流の場として、多世代・異業種の意見交換や交流連携、起業・創業の支援、移住定住の相談、イベントの開催などを実施し、若者や子育て世代等の多世代が交流する空間を創出する。宇部市中央町三丁目にある。
多年草	草本植物のうち２年以上にわたって生存する性質をもつもの。
中心市街地	人口が集中し、商業、行政機能が充実している地域を指す。宇部新川駅周辺、市役所周辺、中央町三丁目周辺を含む。

は行

ハーバリウム	ガラス瓶の中にドライフラワーなどの乾燥処理をした植物を入れ、アルコールや防腐剤などに浸して保存したもの。造花ではなく本物の花を利用して作る点が特徴で、日光を当てたり水をやったりする必要がなく、長期間鑑賞できる。
バックヤード	苗を栽培する圃場のこと。
ハッシュタグ投稿	Instagram や Facebook 等の SNS 上で、ハッシュマーク「#」（半角）がついてタグのようになったキーワードを投稿すること。ハッシュタグはクリック可能なため、同じハッシュタグが付いた他の投稿を閲覧することができる。ハッシュタグによって検索性が高まる為、より多くのユーザーに投稿を見てもらうことができる。
ハンギングバスケット	つりかごなど空中へぶら下げられる容器に植物を植え付け飾る空間演出の方法の１つ。イギリスではじまったとされる技法で、都市景観から個人の庭や室内などどこにでも飾って楽しめるのが魅力となっている。 また、空中に浮かべて植物を飾ることで、スペースを有効に活用できるのもポイント。
プロデュース花壇	「緑と花と彫刻のまち宇部」をより一層花いっぱいの町にするために、市民のボランティア意識や地域に対する愛着心の向上を目的としたグリーン・パートナー事業のひとつ。公共施設の花壇をプロデュース（制作・管理）する団体を募集し、市が苗や肥料の一部を支援するもの。
壁面緑化	建物の壁を植物で覆うこと。ヒートアイランド対策として、緑化事業の一つとして位置づけられている。
ポケットパーク	道路沿いや街区内の空き地など、少ない面積の土地を利用した小さな公園または休憩所のこと。地域の生活環境の向上を図り、気軽に休める憩いの場所。

	用語	説明
ま行	マイスター	名人、専門家のこと。
	銘板	銘（作者名）を彫った金属板。ネームプレート。
や行	遊休農地	現に耕作の目的に供されておらず、かつ、引き続き耕作の目的に供されないと見込まれる農地。その農業上の利用の程度がその周辺の地域における農地の利用の程度に比し、著しく劣っていると認められる農地。
わ行	ワークショップ	講師の話を参加者が一方的に聞くのではなく、参加者自身が討論に加わったり、体を使って体験したりするなど、参加体験型、双方向性のグループ学習。
I	ICT	Information and Communication Technology の略で、情報通信技術のこと。
	IoT	Internet of Things の略で、様々なモノがインターネットに接続され、情報交換することにより、相互に制御する仕組みのこと。
S	SDGs	Sustainable Development Goals の略。2015 年 9 月に国連で採択された持続可能な開発のための「2030 アジェンダ」において、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標として掲げられた 17 の持続可能な開発目標のこと。
	SDGs 未来都市	内閣府により選定された、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け、優れた取り組みを提案した 29 都市。
	SNS	Social Networking Service の略。インターネット上で人と人のつながりや交流を楽しむコミュニティ型の会員制サービス。Facebook や instagram、LINE などの総称。
U	UBE ビエンナーレ（現代日本彫刻展）	宇部市ときわ公園で隔年開催される 1961 年から続く世界で最も歴史ある野外彫刻の国際コンクール。





ガーデンシティうべ構想

宇部市 総合戦略局ガーデンシティ推進グループ

〒755-8601　宇部市常盤町一丁目7番1号

TEL：0836-34-8485　FAX：0836-22-6008